

2024(令和6)年度

活動報告書



みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

< 目次 >

報告書発刊に当たって（巻頭言）	1
視察研修実績	2
岡山大学活動報告	4
岡山大学留学中の JICA 研修員フィールドワーク	6
水島を学びのフィールドに：ゼミ活動報告（大阪公立大学）	8
みずしま滞在型環境学習コンソーシアム報告書 岡山県立倉敷古城池高等学校	9
地域サロン	13
テラスミーティング	24
地域学習を通じた外国人技能実習生と共生する地域づくり（橋本財団助成）	33
外国人実習生との研修ツアー	34
水島まちあるきイベント(MIZUSHIMA WALKING)	40
ホームページ改正	44
三菱石油石油流出事故から 50 年 記念講演会	46
みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動報告会	49
運営・奥付け	50

令和 6 (2024)年度報告書発刊に当たって（巻頭言）

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 会長 古川 明

持続可能な地域づくりを担う人材育成を目的に、2018 年 3 月に設立された「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」は、今年 3 月で丸 7 年を迎えることができました。一昨年からスタートした新体制の下、順調に活動を継続していますが、本年度は、2022 年度から執り行われることになった修学旅行の受入れや研修に加え、これまでに水島で研修を行った経験のある大学や高校・中学から再訪を受けるケースや P B L 的要素を含む研修依頼も少しずつ増え、今後に弾みの付く展開も見えてきつつあります。加えて、橋本財団の助成を得て、水島に暮らす技術研修生をはじめとした外国の人たちとの交流機会を創る新たな取組みにも挑戦できました。

以上のような流れの中で、今年度は、次のような活動を実施することができました。

- 1：各種研修受入の継続実施
- 2：地域サロンの開催
- 3：岡山大学地域連携型授業の実施
- 4：古城池高校の地域連携に根差した探究活動の支援
- 5：高校・大学生と外国人技術研修生を中心とした異国間交流機会の創出

これら各事業の実施によって、活動基盤の整備は進み、水島を学びのフィールドにするという活動は、多くの方々を巻き込みながら着実にその歩を進めています。次年度は、活動の中心となっている既存の 8 つのコンソーシアム研修プログラムの普及・推進に努めると共に P B L 的要素を加味した柔軟性のある研修受入の増加、外国人との交流機会の拡大を図るなど、関係先と連携・協働しながら業容の拡大に向け努力を注いで行きたいと思っています。

視察研修実績

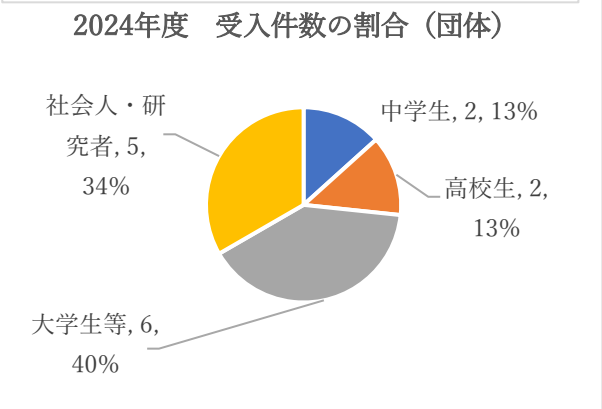
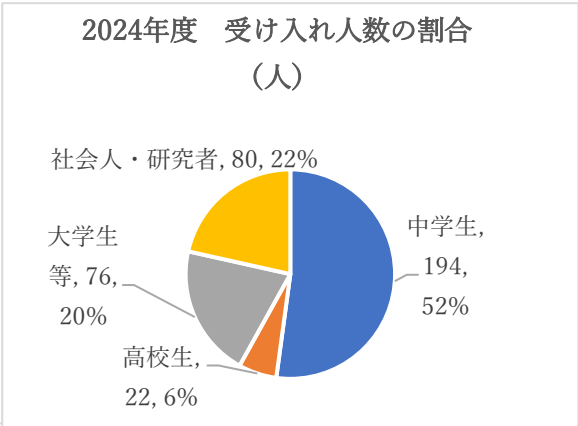
みずしま財団藤原園子

2024 年度は 15 団体、372 人の方に水島の学びを体験いただきました。富山県、滋賀県の中学生の修学旅行、大阪府や鳥取県の大学生の授業・ゼミ旅行の利用、社会人の研修等です。

今年度最も多く受け入れたのは、人数では中学生の受入 194 人、件数では大学生・院生(留学生含む)の 6 団体でした。社会人(行政・企業・団体等)も今年は 5 団体、80 人と多い人数で、注目すべき点でした。水島信用金庫様の新入職員研修をこのプログラムで初めて実施しました。

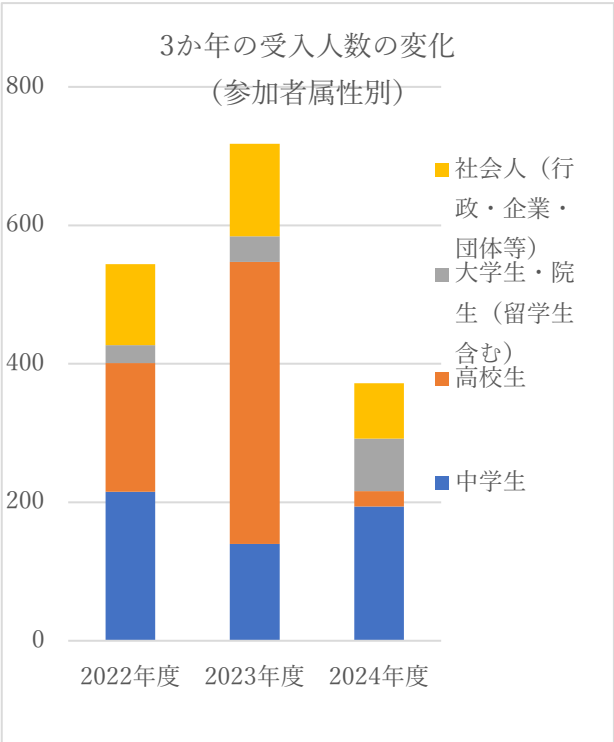
【2024 年度実績(参加者属性)】

属性	人数 (人)	件数 (団体)
中学生	194	2
高校生	22	2
大学生・院生(留学生含む)	76	6
社会人(行政・企業・団体等)	80	5
合計	372	15



2022 年度から 3 か年の受け入れ人数を下記表と右グラフに示します。2024 年度は高校生の受入が少なく、全体数が減っています。

属性	2022 年度	2023 年度	2024 年度
中学生	215	140	194
高校生	186	407	22
大学生・院生(留学生含む)	26	37	76
社会人(行政・企業・団体等)	117	134	80
合計(人)	544	718	372



【2024 年度実績(詳細)】

	実施日	連絡者(代理店等)	団体名	人数	概要(先方からの要望等)
1	4/25	水島信用金庫	水島信用金庫 新入職員研修	9	クルーズ、まちあるき、こども食堂等
2	6/6	東武トップツアーズ滋賀支店	彦根市立中央中学校	135	事前学習ZOOM、環境学習に熱心で水島希望
3	6/6	岡山県観光連盟	台北市松山高級工農職業学校	16	萩原工業見学
4	7/1	岡山理科大学附属高校国際バカロレアコース	岡山理科大学附属高校国際バカロレアコース	6	事前学習 ZOOM と、亀島山地下工場見学希望
5	7/4	JTB 山陰	敬和会	39	萩原工業、クルーズ
6	8/8	JICA 中国	留学生	5	古城池高校との交流
7	8/10	コンソーシアム(橋本財団助成事業)	コンソーシアム	18	技能実習生との交流、クルーズ
8	8/20	小田象製粉(株)	小田象製粉(株)	5	工場見学、クルーズ
9	9/8	コンソーシアム(橋本財団助成事業)	コンソーシアム	16	技能実習生との交流、バスツアー
10	9/9	大阪公立大学	大阪公立大・島根大・岩手大	15	ゼミ生中心、亀島山地下工場、萩原工業
11	9/25、26	鳥取大学地域学部	鳥取大学	13	授業として実施、1泊2日、複数プログラム
12	10/31	日の丸観光トラベル米子	大山町人権・同和教育推進協議会	19	平和と多文化共生
13	2/4	大阪公立大学人権問題研究センター	大阪公立大学人権問題研究センター	8	朝鮮学校や亀島山地下工場を希望
14	2/9	岡山大学	岡山大学	9	集中講義、事前学習有
15	2/26	JTB 富山支店	片山学園中学校 2 年生	59	クルーズ、萩原工業、環境学習・監視センター ※3 つにわかれ、2 プログラムを体験。
合計				372	

以上

2025年2月7日に岡山大学の学生と水島商店街でのまち歩きを行った。今回のフィールドワークで驚いたのは、学生による地域の目線が大きく変化していることだ。大人は、公害問題から環境再生のまちづくりの水島地区で考えるが、学生は、水島コンビナートが、地域に魅力や価値を付加していると述べる。

『公害のないまちにするためには、公害問題では被害にあった人たちだけに目が向きがちですが、企業などの方にも目を向け多角的な視点を持ち、様々な立場からの意見を聞き取り入れていく必要があるという話を聞き、今まで公害問題で被害者側の立場でしか考えたことがなかった自分にとって新しい発見でした。かつては公害で人々に嫌悪されたであろう水島コンビナートも今では夜景がきれいだったり、出てくる煙で存在感を放ったりと、水島の見どころの一つになっているのが、まさに地域の変化と進化を表していると感じました。かつて公害問題が深刻だった水島コンビナートも、時間を経て環境対策が進み、工業地帯が持つ新たな魅力や価値を見出すことができ、単なる産業地帯ではなく、地域の一部として愛される要素となり、観光資源としても活用されていることが特徴だと思います。』

もう一つのレポートは、昭和レトロが感じられる商店街に魅力を感じている点だ。

『講義の中で水島財団の講師の方が、水島が近代日本の縮図であると述べる場面がありましたが、フィールドワークが終わって感じたのが本当にその通りだということです。水島は様々なことを学習することができる絶好のフィールドでした。このように思える理由は水島のまちづくりにあると思います。もともと暮らしていた人と名古屋から来た人が協調しようとした跡が2キロほど続く平屋の住宅や、衰退の跡は感じさせながらも、昭和レトロの雰囲気や、新しい人々の参入が見て取れる商店街によって、戦後復帰や高度経済成長が行われてきた日本がそのまま表されていると感じました。私は今回のフィールドワークを通して本当に様々なことを学ぶことができたので、願わくは、水島がこのまま昭和レトロの雰囲気は残しながらも新しいお店の開業など進歩を止めることなく成長してほしいと感じました。このような学びの場所は日本有数だと思うので、壊すことがないようにしてほしいと感じました。

最後に古川さんや先生に感想を伝える場面でも言いましたが、今回水島のまちづくりを通して感じたのはやはりロマンです。もともと水島に住んでいた人だけでなく、外から引越してきた若者たちが新たな商売を始めようとしているという話を聞いたり、まだまだ活用できる余地しかない水島の町並みを見たりして、本当に成功の未来を感じられました。こ

れらのこともロマンを感じた一因ではありますが、一番私がロマンを感じたのは、実際に水島に暮らす人のバイタリティーのすごさを感じたことです。古川さんや塩飽さんや福田さんはもちろん、こころやのおばあちゃんやその娘さんから本当にバイタリティーを感じました。具体的には、こころやでお二人の熱い思いを聞いたことや、実際に行われている活動を聞いたことです。コンゴで苦しんでいる児童のために仲間と協力して支援活動を行っているというお話や、東京で旦那さんと商売を行っていて、水島に帰ってきてもプリンを販売して稼ぎを得たりしているというお話です。これだけ自分から行動を起こしている人のお話を聞いて、自分もとても刺激を受けましたし、水島の明るい姿が脳裏に浮かびました。最後になりますが、今回協力してくださった水島の方々や、様々な知識を提供してくださった先生に感謝の念を述べてレポートを終わりたいと思います。本当に貴重な体験の機会を与えてくださりありがとうございました。』

今回のフィールドワークでは、水島で暮らす人々の個性に対し、学生が興味を持ったようだ。環境学習コンソーシアムは、地域の魅力を発掘することに力を注いできたが、地域の皆さんが暮らしを語ることが一番印象に残っているようだ。水島を舞台にした環境と暮らしの語りが、まちづくりのキーワードになりそうだ。

地元の高校生と意見交換！岡山大学留学中の JICA 研修員等が倉敷市水島でフィールドワーク

独立行政法人国際協力機構中国センター（JICA 中国）

吉田 英一

萩原工業株式会社様を訪問

8月8日（木）、JICA 研修員 3 カ国 5 名（ブラジル 1 名、ケニア 3 名、南スーダン 1 名）の参加を得て、倉敷市水島でフィールドワークを実施しました。このフィールドワークは「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」（以下「コンソーシアム」という。）様のアレンジで、2020 年から年 1 回実施しています。

今回は岡山大学大学院に留学中の長期研修員 4 名に加え、日系社会研修の研修員 1 名も参加しました。日系社会研修とは中南米の日系社会と日本の連携に主導的な役割を果たす人材を対象とした研修で、今回参加したのは NPO 法人工房尾道帆布様にて研修中のブラジルの研修員です。

9 時 15 分に JR 岡山駅に集合後マイクロバスにて出発。本日の最初の目的地は水島コンビナートの中にあり、ブルーシートの生産国内トップの萩原工業株式会社様です。岡山県南部の産品であった「い草」と「綿糸」から畳表を製造する事業が、産業構造の変化により、現状に至るまでの経緯をお話いただき、企業と地域開発との関連について学びました。その後、製造ラインとブルーシートのリサイクル施設の見学もさせていただきました。研修員はブルーシートのリサイクルに積極的に取り組む同社の「つくる責任」を重視する姿勢に感銘を受けたようです。



ブルーシートの製造ライン見学。

高校生による活動発表と意見交流

次に倉敷市環境学習センターに移動し、コンソーシアム会長 古川明様からコンソーシアムの活動の紹介の後、研修員と岡山県立倉敷古城池高校の生徒さん 7 名は、各々が持参した昼食を一緒に食べました。昼食の後、同校の先生から様々な地域連携活動の紹介があり、続けて高校の 7 名の生徒さんにより、今年アメリカで披露された水島地域でのフードロス削減の啓発活動についての英語によるプレゼンテーションが再現されました。倉敷市の水島地域では、多様な主体の協働による地域づくりが進んでおり、倉敷古城池高校では探究学習の一環として、こども食堂、海岸生物&ごみ調査、公民館での防災非常食活用講座など、様々な分野で地域と連携した取り組みを行っているとの事、発表の後は、和やかな雰囲気の中、意見交換が行われました。



岡山県立倉敷古城池高校生との意見交換。

日本語の「MOTTAINAI(もったいない)」の精神を世界に広めることに尽力された、環境分野での初のノーベル平和賞受賞者である、ケニア出身の環境保護活動家ワンガリ・マータイさんのことも話題にあがっていました。高校生という若い世代が能動的に持続可能な開発目標のための活動を実践する姿は、研修員に大きな刺激となったようです。

その後、古城池高校の 7 名の生徒さんと一緒に、倉敷市環境監視センター職員の方から、環境を守る行政の仕事について説明を受け、倉敷市環境学習センターの施設を案内していただきました。また、環境に優しい水素燃料電池自動車も見学させていただきました。この水素燃料電池自動車は環境教育のために出前講座や施設見学などで活用されたり、倉敷市の公用車としても使用されているとのことでした。



倉敷市環境学習センターに展示中の水素燃料電池自動車。

有意義な 1 日を終えて

最後に鷲羽山スカイラインにある水島展望台から水島コンビナートのある工業地帯と住宅地の立地を俯瞰しました。そして、本プログラムを企画し、終日同行してくださったコンソーシアム事務局のみずしま財団理事・研究員 塩飽敏史氏からお話を伺いました。その中で『今日のフィールドワークが、環境、地球、人との繋がりについてもう一度考える機会になれば幸いです。』また、『持続可能な開発目標の達成のためには、若い世代の理解や活動が不可欠であり、最も重要です。』とのメッセージを研修員にいただきました。



有意義な 1 日でした。(水島展望台にて。)

水島フィールドワークは 2020 年度から年に 1 回実施して来ています。これまでフィールドワークに参加した研修員は母国の行政等に携わっており、このフィールドワークでの実体験は何らかの形で、帰国後の業務に活かされていると考えます。また、今年度は新しい試みとして、プログラムに高校生の発表と意見交換を加えました。高校生には JICA 研修員や JICA の活動の一端を知ってもらおう機会にもなりました。これを機に、高校生の国際協力に対する興味が少しでも高まれば幸いです。最後になりましたが、今回のフィールドワークにご協力いただいた皆様方に、あらためて御礼申し上げます。

水島を学びのフィールドに：ゼミ活動報告

除本理史（大阪公立大学教授）

大阪公立大学除本ゼミ（環境政策論ゼミ）は、前年度に引き続き 2024 年度においても、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム委員・事務局のみなさまにご協力いただき、活動を行ってきた（加えて、2025 年 2 月 4～5 日の大阪公立大学人権問題研究センターの研修でもお世話になった）。あらためて深く御礼を申し上げたい。

2024 年度のゼミ活動は次の通りである。前期は、まず『「地域の価値」をつくる』（東信堂、2022 年）などの文献学習を行った。そのうえで、2024 年 9 月 8～9 日の 2 日間、水島でゼミ合宿を実施した。1 日目は、コンソーシアムの橋本財団助成事業に参加させていただく形で、水島バスでめぐり、技能実習生の方々と交流を深めた。2 日目は、亀島山地下工場を見学し（島根大学・岩手大学の研究者と合同）、また萩原工業でも事業内容や製品のご説明をいただいた（その後、美観地区を散策するなどして解散）。

後期は、ゼミ生が次の 3 チームに分かれ、水島のお土産品開発などのグループワークを行った（途中経過は、コンソーシアムの古川明会長、吉田淳一委員、林美帆事務局長などにもご報告し、コメントをいただきながら検討を進めた）。

- ①水島のお土産品開発プロジェクト I：萩原工業編（土嚢袋に印刷する技術を活かして、お土産品の案を考える。水島と萩原工業の歴史も伝えられるよう工夫する。）
- ②水島のお土産品開発プロジェクト II：工場夜景編（橋本正広様撮影の工場夜景写真を用いたお土産品を提案する。写真に込めた思いも伝えられるような工夫をこらす。）
- ③亀島山地下工場プロジェクト（見学者目線地下工場の意義や魅力を提案する。）

これらの成果については、2025 年 3 月 15 日の活動交流会で、当時 3 回生の江村裕香と筆者から概要を報告させていただいた（江村はこの取り組みをベースとして、2025 年度に卒業論文を執筆する予定である。また、2025 年 11 月 22～23 日に水島愛あいサロンで開催される日本環境会議第 40 回水島大会で、エクスカージョンのノベルティとして、当ゼミで検討したお土産品の提案を実施に移すことも検討中である）。

今後もコンソーシアムの皆様にご指導いただきながら、水島の魅力を発信するゼミ活動を継続していきたい。



チーム①による提案の一例： デザイン養生テープ

- ・貼って剥がせ、メモできるふせんのような商品
- ・手でちぎれる。水に濡れても剥がれにくい。マジックで文字が書ける。
- ・水島臨海鉄道さんとコラボして車両のイラストなどを印刷する。
- ・（旧）倉敷はマスキングテープ、水島は萩原工業の養生テープ＋ブルーシートというイメージ戦略。
（イラストは江村裕香による）

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム報告書

岡山県立倉敷古城池高等学校

教頭 澤 顕義

1 本校の探究活動の概要

本校では「総合的な探究の時間」を古城池タイム(KT)と呼び、1年次では授業1単位、授業外1単位(ガイダンスや企業訪問等)、2年次では授業1単位で実施している。

KTの目標

自己のあり方・生き方や進路について考察を深めるため、学び方やものの考え方を身につけ、探究活動や課題研究に主体的に取り組む態度や、他者と協働的に課題解決していく資質・能力を身に付ける

主な内容は1年次が「社会とつながる」をテーマに自分史作り、企業訪問事前・事後学習、課題探究であり、探究的な手法を身につけながら、文理選択や興味のある学問分野を考え深めていく活動をしている。

2年次は「進路とつなげる」をテーマに大学訪問や、1年次の後半に取組んだ課題探究をさらに高度な活動にして、3月に行われる課題探究成果発表会で、1年次生や水島プラットフォーム実行委員会(後述)の方々に向けて、探究活動の成果を発表している。

特に2年次の活動では、地域と連携して体験的な活動を企画実施したり、大学の先生からアドバイスをいただいたりして外とつながる活動を多く取り入れている。

2 本校の探究活動における地域連携組織について

2018年、「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」の第1回シンポジウムで、「地域で生まれ育つ子どもたちが地域の自然・文化・暮らしに触れ、地域への愛着を持てる地域社会の持続可能性を発見する教育プログラムを開発することにより、地域を愛し、地域に根づくグローバル人材の育成を目指して事業を展開する」ことが宣言された。

2019年、高校教育の視座からこのコンソーシアムの理念を具現化するための基盤環境として「水島プラットフォーム」が立ち上げられ、翌年、本校でのKTを柱とする産官学民連携による探究活動が始まった。

年に2度行われる「水島プラットフォーム実行委員会」では、学校経営に関する意見交換や、水島プラットフォーム関連の活動の報告が行われ、その後本校生徒と実行委員とのフリートークが行われる。フリートークは実行委員が地域で抱えている問題点を話したり、生徒から探究活動を行う中で感じた疑問点などの意見交換が行われたりして、約1時間のトークタイムはすぐに終わってしまう。また、全体会が終わった後も延長戦で話している生徒も散見される。

フリートークは主に文系生徒の社会学分野が中心となり始まった企画であるが、今年度から文部科学省の事業である「高等学校等デジタル人材育成支援事業(DXハイスクール事業)」により、最新のICT機器を使って、地域の問題解決を目指す理系生徒が広島工業大学の教授との意見交換をすることになり、参加生徒の幅が広がっている。

3 今年度のコンソーシアムの活動について

(1) 水島コンビナートクルーズ&バスツアー

今年度は多くツアーを実施する機会をいただいた。生徒は先輩達からこの活動を引継ぎ、水島港クルーズで紹介するコンビナートの特徴をアップデートさせたり、水島の街の内容を充実させたりしていた。5月にフィールドワークで紹介原稿の元になる情報を収集し、7月には練習会を実施して、紹介内容やタイミングの内容をチェックした。前述の DX ハイスクール事業で導入した 360° カメラで、クルーズやバスツアーの様子を撮影し、ガイドの練習ができる環境を構築した。

8 月には、本校生徒が「STOP 温暖化くらしき」関連行事として真庭市のバイオマスツアーに参加し、真庭高校の生徒にガイドしてもらうなどの交流を実施した。その 3 日後に真庭高校の生徒が水島地区を訪れ、本校生徒のガイドによる水島コンビナートクルーズ&バスツアーを実施した。両校の生徒とも新たな学びの機会になった。

さらに、11 月には 7 月の練習の成果からさらに改良を重ね、一般の生徒や水島プラットフォーム実行委員会関係者も参加できる形で水島コンビナートクルーズ&バスツアーを行った。

また、今年度は旅行会社がこの活動に着目して、本校に「水島コンビナートナイトクルーズ」の企画を提案していただき、こちらも 9 月に練習クルーズを行った後、12 月に一般の観光客 13 人を対象としたクルーズが実施できた。

(2) テラスミーティング TOKIWA

一昨年前までは「パーキング・デー」として、世界同時イベントとして 9 月に実施してきたが、昨年度より、「テラスミーティング TOKIWA」と名前を変えて、3 月中旬に実施している。

このイベントは、本校生徒を中心に、地域の方と協力しながら企画を一から考え、決められた条件や予算や中で地域交流イベントを実施している。昨年度は「昭和」をテーマに令和世代の考える「昭和」を具現化したが、今年度は水島地域に多くの国籍の方が在住していることに着目して「異文化交流」をテーマとしてイベントを企画した。

月に一度のミーティングを中心に、市役所やモスク、母国料理の店などを訪れて内容を検討し、当日は日本を含む 5 カ国の国の文化や言語を紹介したり、2 カ国 5 種類の料理を食べられるブースを設けたり、紙ヒコーキ大会などを実施したりした。さらに、本校の企画として制服会社から余り布の提供を受けて、ブックカバーやしおり等の小物を作り販売をした。こちらも好評で、ほぼ完売の売れ行きであった。

昨年度以上に多くの来場者があり、また、参加された外国出身の方の反応も良かった。まだまだ、紹介できていない国もあるため、来年度も同様の企画をブラッシュアップすることを考えている。

4 最後に

以上のように、コンソーシアムの理念は具現化され、今年度は地域連携の企画が延べ 99 企画、生徒も延べ 749 名が関わることになった。生徒の学びにもつながり、地域を学ぶ系統の進路を選ぶ生徒も増えている。これからも水島プラットフォーム実行委員会の関係者と協力して地域に根付いた活動を推進していきたい。





地域サロン

ミズシマ・パークマネジメント Lab. 古川明

ミズシマ・パークマネジメント Lab. にて2022年より開催されるようになった「地域サロン」も、今年で3年目を迎えることになりました。その目的は、水島や町に所縁のある方々をミズシマ・パークマネジメント Lab. (以下、MPMラボ) にお呼びして、それぞれの方から専門的な知識や特技、ご趣味や貴重なご経験などを、水島にお住いの方々にご紹介することを通じて、地元水島のことをもっと知ってもらおうというところにあります。今回は、2024年8月31日に開催したENEOS オーシャンの原油船現役船長を務める高石英紀さんによる「原油船船長のお話」と、翌年2月2日に開催した、50年前(1974年12月18日)に水島で起きた重油流出事故の体験者(三菱石油「現在のエネオス」)、藤原哲男さん、稲葉卓志さん、岩永隆久さんの3名から、「水島重油流出事故」当時の生々しい状況を聞かせて頂くことができましたので以下にご紹介します。

その1:『原油船船長のお話』



講話中の高石船長

【概要】

日常生活に欠かすことのできないエネルギーや石油化学製品製造原料の太宗を占め、様々な用途に利用されている原油を、遙々、中東を中心とする海外各地から大型タンカーで運んで来てくれる、謂わば日本の生命線を握ると言っても過言でないほどの大役を担っている原油船キャプテン(ENEOS オーシャン/高石英紀 氏)の仕事ぶりを聴かせて頂きながら、エネルギー資源の乏しい日本のエネルギー事情を再認識することを目的に企画したもので、中東から、3週間かけて、国内へ原油を運んでくる大型タンカー(VLCC)の寄港地でのトピックスや航海中に遭遇したハリケーンに対する術と船員さん達の澁刺とした仕事や暮らしぶり、船員さん達を支える料理長の腕前などについて、洋上からの素晴らしい写真を織り交ぜながら紹介頂きました。

【航海編】



<写真：デッキより前方を>

中東からの航海は、3週間を要する長旅である。

その道中、船長は、外国人船員とコミュニケーションを取りながら、国内まで原油を安全に輸送するという大変大きな責務を負うことになる訳であり、海図や気象条件を

頼りに安全航行を図る神業的な業務を遂行し、航海中に気の休まることは一時もないように感じられた。また、平時はともかく、予期せぬ事態が起きた場合には、一瞬の判断の誤りにより取り返しの付かない結果を招きかねないので、有事における普段からの対応訓練や心構えなど、常人には熟せない、まさにプロフェッショナルの技量が求められる訳で、誰でも船長が務まるものではないことを、講話を通じて強く認識させられた。

嘗てサウジアラビアに勤務中、ペルシャ湾出口に位置するホルムズ海峡の上を飛んだことがあるが、ほんの30kmほどしかない海峡に原油船を沈めてしまえば、日本のエネルギー供給は立ちどころに途絶え、エネルギー危機を迎えることになってしまうという現実を、殆どの日本人は知る由もない。

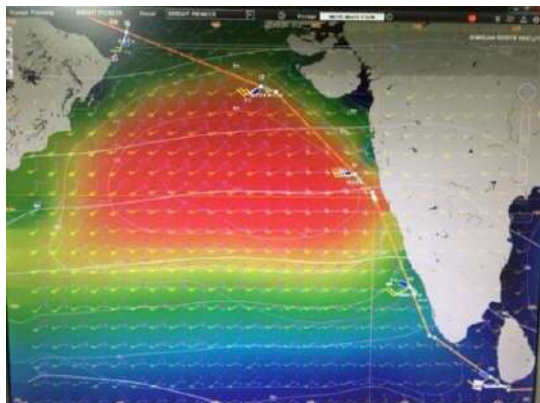


<写真：台風の進路図>

原油船船長を経験した私の高校時代の友人からは、以前、中東海域で、海賊に襲撃され、機銃掃射を受けたこともあるという話を聞いたことがあり、いつ何時、海賊が現れても不思議のない海域であるとの認識を持っていたことから、高石船長に海賊に出くわしたことがあるかどうか尋ねたところ、「幸い、これまでのところ遭遇したこと

はない」とのことで、ホッと胸を撫で下ろした次第である。

船長は写真を撮ることが好きで、航海中に撮影した数多くの興味深い写真を見せながら話を進めてもらったので、参加者の方々にとっても、航海の様子を容易に思い浮かべること



<写真：インド洋上の水温分布と航路>

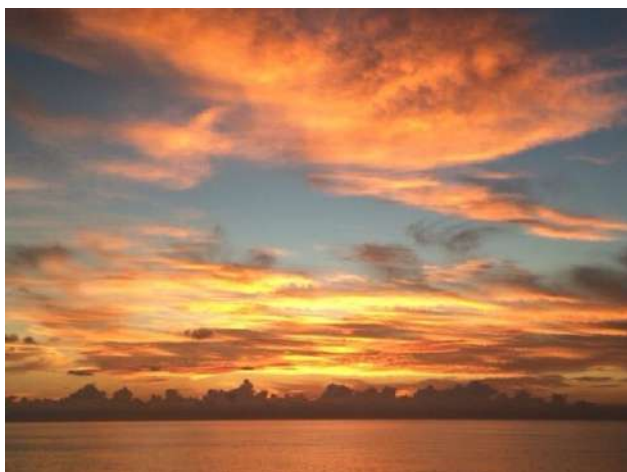
ができて理解しやすかったのではないかと思います。講話の中で、印象に残った点はいくつもあったが、普段目に触れることのない計器やチャート、その用途や、ハリケーンを回避する方法や、ハリケーンに遭遇した時の対処法、大きく船が傾ぐ様子など、生々しい話の詳細に参加者は、終始、耳を傾けていた。そ

の他、華やかな進水式の模様や洋上から見た虹や雄大な海上の風景、そうした中で必要に応じて船の塗装や高所点検作業など、危険な業務をこなしながらの長旅を終えて鹿児島県の喜入基地に戻ってきた時に見る桜島の雄姿を目にした時の感動は如何ばかりかと思うと、胸を締め付けられるようであった。

このようにして、3週間をかけて国内に中東から原油を運んできてくれるタンカーの乗組員の皆さんの尊いお仕事に改めて敬意を表したい。



<写真：進水式セレモニーで（高石船長は左端）>



<写真：船上から見た夕焼け>



<写真：船上の煙突塗装作業>



<写真：出くわした洋上の虹>



<写真：タグボートと出航するタンカー>



＜写真：ブライتكレスト号甲板に集合した乗組員（高石船長は、白服の左から2人目＞

【船上生活編】



＜写真：クリスマスを楽しむ船員たち＞

続いて、船長の話は船上での充実した暮らしぶりへと移った。タンカーでの長旅と聴けば、誰しも、退屈で味気ないものだろうと想像しがちであるが、高石船長の紹介する写真から想像できるのは、楽しく充実した船上の暮らしぶりである。

その鍵を握っているのは、紛れもなく船長である。国籍がバラバラの船員さん達と意思疎通を図ることが安全航行の必須条件となる訳であるが、その要となるのが船長だ。見せてもらった船上での船員さん達とのやり取りや打ち解けた雰囲気づくりに向けたきめ細かい船長の配慮や気配りが随所に感じられ、上陸した際に感じる、あの人懐かしい性格と心のふれあい、相互の信頼関係を重要視する姿勢が、そのまま船上でも遺憾なく発揮されていることを伺い知ることができた。



<写真：船内で音楽を楽しむ船員と高石船長>

海難事故の原因の多くは、ヒューマンエラーに依るものであると言われ、中でも船員間のコミュニケーション不足に起因することの多い現状であるが、高石船長の指揮する船に限って、そんなことの起きる筈もないことを確信できた次第である。もうひとつ、快適な船上生活を送る為の鍵を握るのは、何と言っても日々の食事を振舞ってくれる料理長の腕だ。単調な生活の中で、楽しみは何と言っても三度三度の食事であることは言うまでもないが、写真でも紹介されている通り、洋上で釣った魚は、いとも簡単に刺身やたたきへと変身を遂げ、船員の誕生日には誕生日用のスペシャル料理が、クリスマスには、イブにふさわしい料理が、また歳の暮には年越し蕎麦、年が明けてお正月にはおせち料理がテーブル上に所狭しと並んで、船員さん達をまるで自宅にいるのと同じ気分にさせてくれるのである。

こうして、滅多に聴くことのできない貴重な話が満載だったこともあって、講話の後の質問コーナーでは会場から質問が続出、高石キャプテンのユーモアに溢れた回答に質問者が肯くなど、終始和気藹々としたムードの中で予定の90分はあっという間に過ぎ、無事に会を終えることができた。

参加者の皆さんは、終了後、有志で会場に残り、講師の高石船長を囲み、グラス片手に jazz を聴きながらアフターをたっぷりと楽しんだ次第である。



<写真：クリスマス用料理>



<写真：正月用料理>



<写真：誕生日用スペシャル>



<写真：釣り上げた魚>

【ENEOS オーシャン(株) 高石船長の感想】

私とMPMラボとの出会いは、以前、バースマスターとしてエネオス水島製油所勤務時代にお世話になった中西さん（当時ENEOS水島製油所需給グループ勤務）に、MPMラボで開催されたレコード鑑賞会に誘っていただいたのが最初です。

それまでも、水島という街に対して「工業地帯なのに案外住み易い」という漠然としたイメージを持っていましたが、MPMラボやその関係者の人達に逢い、活動内容を知ること
で、水島が自分の「好きな街」に変わっていきました。

神奈川県に在住の船員である為、回数は限定されますが、今後も活動に参加させていただきたいと思います。

その 2 :

『瀬戸内海重油流出事故』



【概要】別項で報告された「三菱石油重油流出事故記念講演会」講演会の後、事故当日の様子を体験者3名によって、それぞれ異なる視点から語って頂いたが、時間の関係で語りつくせなかった方や、もっと詳しい話を聴きたかったとの声も上がっていたことから、年が明けた2月2日に、三菱石油OBのお三方（藤原哲男さん、稲葉卓志さん、岩永隆久さん）にMPMラボにお越しいただき、これまで触れられることのなかった当時の社員の鬱屈した思いや、熱油の海の中を身の危険を顧みることもなく自転車で現場に向かった危険を顧みない行動、今のように地元との良好なコミュニケーションが図れていなかった当時の事後対応が如何に大変だったかなどについて、重い口を開き、それぞれの方々から忌憚のない意見や感想を語って頂くことができた。当時、それぞれの立場で安全第一を心掛けながら、最大限できる努力を果たしたお一人お一人の責任感溢れる行動と当時の偽らざる心境を聴かせて頂き胸が熱くなる思いであった。

■登壇者の言葉

（藤原哲男さん）

三菱石油という社名の最後となる時に退社して25年となるこの時に、殆ど忘れた記憶の中で只一つ忘れ得ぬ出来事「重油流出事故」について、どんな出来事でもいいからとのお誘いがあり、冥途への土産にと思っていた「誰にも話さなかった重い、辛い、悔しい思い出話」をする機会を頂いた。話を聞いて頂いてる方々はコンビナートの事はご存じでも石油精製会社の事は知らない、分からない事ばかりなのに。

にも関わらず質問を挟み非常に熱心に事故の事に関わらず会社生活のことや日頃滅多に話す事の無い会社の内容までトコトン聞いて頂くなど、思いもよらないことまで質問頂き感謝の一言でした。

今思い起こしても、大変な事故でしたが操業再開の知らせを受け装置をスタート出来た嬉しさは忘れることはできません。その中で人身事故と、火災事故の無かった幸運に恵まれたことには、柄にもなく大いに感謝している。



藤原哲男さん

(稲葉卓志さん)

50年前のほんの一部を振り返ってみる

50年前 水島製油所の油流出事故を振り返って今年の正月明けに
当時の記録や実体験を思うままにしゃべってほしいとの相談があった。
記憶の断片を思い起こし、つなぎ合わせ見るが文章にならない。
振り返って一番に蘇ってくるのは、あの夜聞いた遠くでいつもと違う
何とも言えぬ音の響きである。

心にとどめておくほどの感じはしなかった様に思うものの
あの一瞬の響きがこれから先の製油所の歴史の断片を作っていくとは想像もしなかった。
作業着、長靴、手袋、顔は油で真っ黒になり疲れを忘れていた。
岩場や海面の汚れ、砂にまみれた黒い油、島々にできた油の黒い帯が延々と続く、
油で汚れた瀬戸内海の風景を夕日が赤く染める、
じいっと見つめる。
今からとんでもなく長い戦いが始まる予感が頭をよぎった。
汚れた瀬戸内海の清掃
おい皆、疲れたろう今日の作業はこの辺でやめよう。
なんじゃその顔は！
同志の顔を見合わせてお互い笑いあう。
まだ一人油にまみれている奴がいた。
振り向いて、両手ですくった黒い油と砂を見せて、
「これだけでも取ればこの水島の海はきれいになるじゃろう」
「うん そうじゃなー」

「そろそろ引き上げようで〜。」

つづける言葉が見つからなかった。涙を堪えるのが精いっぱいだった。

テレビや新聞で見るニュースを体の疲れを忘れてとてもつらい思いで見た。

油まみれで毎日作業するみんなも、恐らく口には出さないがそう思っていたに違いない。

汗と油汚れを風呂で流す。慣れない力仕事で疲れた身体に飯を腹いっぱい食べる。

ぐったり身体中の筋肉が痛む。



稲葉卓志さん

「テラスミーティング」

ミズシマ・パークマネジメント Lab. 古川明

【活動報告】

(活動のはじまり)

一昨年の夏、「パーキングデー」を受け継いだ形でスタートした「テラスミーティング」。昨年は、昭和の雰囲気醸成されている水島商店街において、水島内外の人々に水島×昭和を感じ、楽しんでもらうために 近年の流行りである「昭和レトロ」をテーマに掲げた活動を行い一定の成果を上げたところであるが、2年目を迎えた今年は、昨年同様、古城池高校の2年の女生徒4名に、同校OGで清心女子大1年の大塚さん、水島商店街の岡部珈琲焙煎店さん、メガネ販売店パグナスの矢野さん、水島盛り上げ隊の野呂副隊長、地域おこし協力隊として水島に赴任したばかりの長嶺レイカさん、MPMラボの活動に普段から興味を持ち協力してくれている「鳥の子保育園」の大西副園長、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムから林事務局長が加わって7月に第1回の打合せを行った。

(テーマの決定)

最初に話し合ったのは、今年のテーマ。高校生達から、最近は倉敷・水島でも外国人の姿を見る機会が増えてきているが、話をしたり互いにコミュニケーションを取る機会がないので、外国人との交流をテーマにしてはどうかとの提案があり、今年のテーマとして「異文化交流」を掲げることになった。

(外国人に関する情報の入手)

しかし、それからが問題で、まずは、水島地区にどこの国の人が何人暮らしているのか、そんな情報をどこに行けば入手することができるのかを探ることから始まった。そんな時、知恵を授けてくれたのが、鳥の子保育園の大西副園長だった。海外経験もあり、地元幅広い人脈を持っている彼から、海外事情にも詳しいM市議の紹介を受けて協力を要請、M市議より倉敷市国際課の佐藤課長を紹介されて以降、一気に活動が動き始めた。佐藤課長は、わざわざ水島まで足を運び、高校生を交えた打ち合わせに参加、高校生達に、水島地域に暮らす外国人国籍や居住者数、それぞれの国の人に会うための窓口や、各国の文化や倉敷で毎年実施している外国人を交えたマルシェの状況など事細かに説明してくださったので、高校生達も理解が進んだようで、その後、自ら、積極的に紹介された先を訪問したり、電話でやり取りを行うなど、時には失敗も繰り返しながら、活動に拍車が掛かった。

(参加国とテラスミーティングのプログラム立案)

最終的には、水島に拠点を構える「日本語教室」の竹内先生、井原の「フィリピーノサークル」のマジョリーさん、水島にモスクを構えインドネシア研修生達の取りまとめを行っている「マスディット・インドネシア・倉敷」のクルニアントさんが、協力してくれることになり、当日、インドネシアやフィリピンの食べ物を提供してもらえることとなった。



年内に凡そのことは決まったので、年が明けてからは、広報用のチラシ作りに集中することになった。チラシ作りに当たっては、チラシに掲載する食べ物の写真や、テラスミーティングのプログラム、タイムスケジュールを掲載する必要があるので、中心となるプログラムについて議論した結果、各国を紹介してもらうトークショーを中心に据え、モスクを訪問した際、クルニアントさんからインドネシアの遊びに紙飛行機のあることを教えてもらったことから、プログラムの最後に各国で折り方の異なる紙飛行機を作って飛ばし合いをしようということに決まった。また、後日、クルニアントさんから、インドネシア音楽を生演奏してくれるメンバーにも参加して貰えそうだとの連絡を受けて、一同、沸き立った。

(広報活動)

高校生達の考案した黄色を主体とした素敵なチラシが完成、500枚印刷して、商店街や公民館、学校関係、倉敷市記者クラブ他、関係先に配布、また、3月に入って、山陽新聞から取材の依頼があり、生徒さん達が2時間に亘って取材を受けることとなった。同記事

は、数日後に地元欄に大きく掲載されることになり、読者から問い合わせが入るなど、確かな手応えを感じられる広報活動となった。



(本番当日)

3月に入った2日、本番に向けた最終打ち合わせを行った。殆どの懸案事項は片付いていたものの、唯一の気掛かりは当日のお天気。予報では、当日は雨模様とのことであったが、開催1週間前には、雨天決行を決め、関係先に連絡を行って以降、天気予報と睨めっこの毎が続いた。そしていよいよ当日を迎えることとなった。



前日まで、開催時間の予報は曇りであったが、当日には、予報が昼前から雨模様になっており、会場設営を始めて暫く経った 10 時半を回る頃にはかなりの雨量が観測された。その後も降ったり止んだりの鬱陶しい天気であったが、生徒さん達の判断で、会場の設営は実施、各国の飲食コーナーを開設して営業することを決め、午後からのトークショーについては、会場をMPMラボに移し、室内で実施することになった。



この判断は結果的に成功、MPMラボの室内が一杯になるほどの入りで、出演してくれたフィリピン、ベトナム、バングラディッシュ、インドネシア各国の人から自国の紹介があった後、会場とのやり取りも実に活発で時間が足りないほど、インドネシアの紹介の後には、同国の皆さんによるインドネシアの曲の生演奏のお披露目へと続き大いに盛り上がりを見せた。

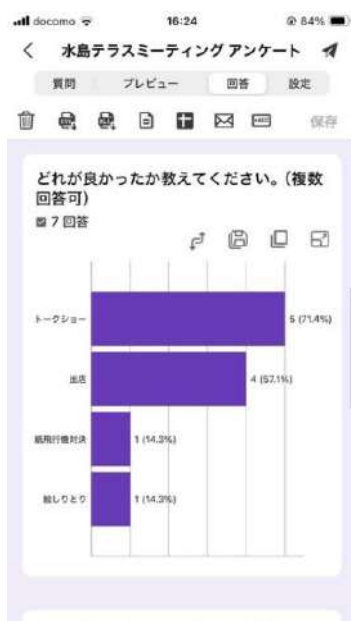
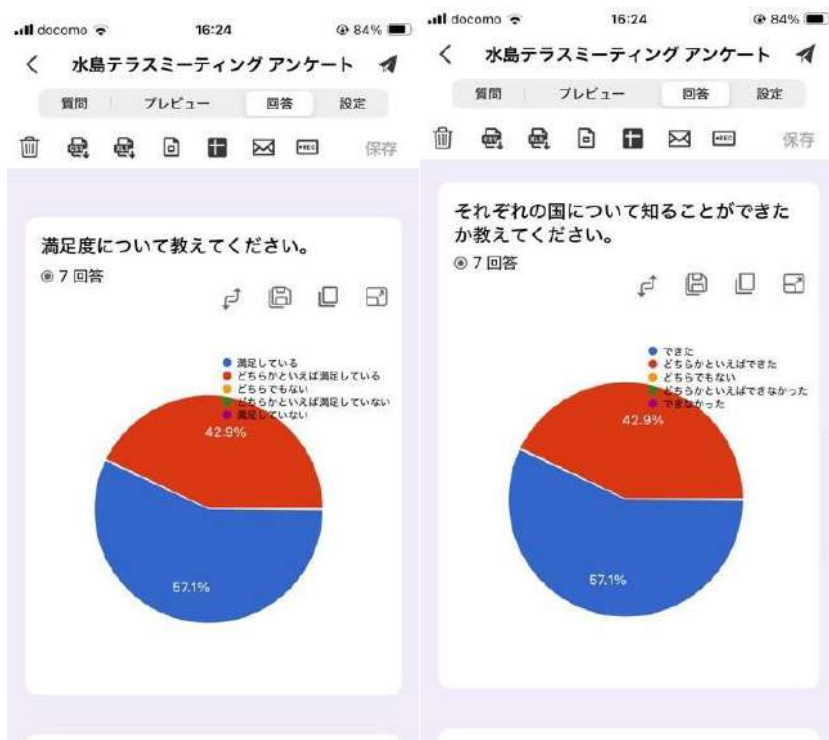


そして最後のプログラム、いよいよ紙飛行機の飛行距離を競う競技だ。場所を、再び、常盤テラスへと移して実施、時折、雨足が激しくなる場面もあったが、各自で制作した力作の紙飛行機を、国の壁を越えて仲良くはしゃぎながら飛ばす光景は、今回のテラスミーティングの目的が達成されたことを物語るものであった。

【来場者の反応】

会場で収集した感想では、「各国のお国柄も良く理解できて楽しかった」「生徒さん達の会の進行も見事で、外交人との会話も円滑で微笑ましかった」「トークショーをはじめ、プログラム構成も楽しく、良く練り上げられた企画だと思った」など、概ね好評だった。

また、ミーティングの評価は、回答者は少なかったものの、以下のアンケート結果にも表れている。



【参加者の感想】



(長嶺レイカ　みずしま地域おこし協力隊)

高校生たちが企画したイベントの裏方のお手伝いをしました。

リーダーの生徒を中心に、4人で役割を分担し、みんなでスケジュールを合わせて打ち合わせしたり、企画案を練ったり、チラシを作成したり。

生徒たちにとって初めてやることも多くあったと思いますし、外部とのやり取りがなかなかスムーズにいかなかったこともあったと思います。

そのたびに何度も打ち合わせをして、試行錯誤しながらも壁を乗り越えていく高校生たちの姿を間近で見守ることができ、私も嬉しい気持ちです。当日は雨が降ってしまいましたが、一生懸命に連携をとり、イベントを盛り上げようと頑張っていたのが伝わってきました。テラスミーティング、成功だったと思います！

(大塚　水優　古城池高校 OG/清心女子大学1年)

今回、去年に引き続きテラスミーティングに参加させてもらい、今年はより高校生たちが主体的にイベントに参加出来たと思いました。私は普段外国人の人と関わる機会が無く、しっかり高校生たちをサポートできるか不安でした。しかし、自分に出来ることを探し、4ヶ国語のアンケートを作るなどの努力をしました。当日雨が降り、雨天の場合をしっかりと決めていなかったことが今回の課題となりましたが、イベント当日にたくさんの人と関わることができ、とても有意義な時間となりました。また来年度も参加したいと思います。

(友野　由菜　古城池高校2年　)

7月から当日まで、皆さんと一緒に企画や運営を行いました。

「異文化交流」というテーマにちなんで、トークショーなどに参加して下さった外国の方の国のクイズやその国について知れるよう、ボードを掲示しました。自分自身も外国の方と関わる機会や外国の知識がなかったのですが、このイベントを通して外国の方と関わり、外国の文化や習慣などについて知ることができました。

当日は生憎の雨でしたがたくさんの方が来てくださって嬉しかったです。急遽トークショーを室内ですることになり、室内の準備や販売の方との連携が難しかったです。そんな中でも最後の紙飛行機大会は外で行えたのが良かったと思いました。参加してくださった方々の楽しそうな姿や笑顔を見ることができて、本当に嬉しかったです。外国の方と地域の方との交流もあったようで、やってよかったなと思いました。

7月から3月まで、たくさんの方と関わったり、問題に直面したり、と様々なことがありましたが、力が身につき、貴重な経験になりました。また地域を盛り上げ、人と人のつながりを作るような活動をしたと思いました。ありがとうございました！

（奥田 陽菜 古城池高校2年）

私はこの活動を通して、多くの学びを得ることができました。その中で特に実感したのが、異文化を身近に感じることができるようになったことです。この活動を行う以前は、在日外国人は街中でたまに見かける程度で、特に意識を向けていませんでした。ところが、国際課の佐藤さんとお話をさせていただいた際、水島地域には約2000人もの外国人が住んでいるとお聞きし、その事実すら全く知らなかった私はとても衝撃を受けました。勝手に自分とはどこか遠い存在だと認識していた在日外国人が、一気に身近な存在として感じられるようになりました。また、当日参加へのお声がけなどのためにインドネシアのモスクを訪問したり、フィリピーノサークルの方々に古城池高校へ来ていただいたりして、直接お話をさせていただく機会もありました。

もともと外国人と対面で話す機会がほとんどなかった私にとって、どうやって自分の言いたいことや意見を伝えればよいのかが大きな課題でした。しかし、実際に会話を交わしていく中で、相手の優しくフレンドリーな対応に触れ、少しずつ緊張がほぐれていくのを感じました。特に印象的だったのは、言語の壁についての気づきです。英語で話せばよいのか、日本語で話せばよいのか、また日本語で話す場合、どの程度くだけた表現を使ってよいのかなど、初めのうちは迷うことが多々ありました。しかし、それよりも大切なのは、言葉以上に表情やジェスチャーといった非言語的なコミュニケーションで感情がしっかり伝わるということでした。このことに気づいてから、言語に対する不安が少しずつ和らぎ、積極的に会話を楽しめるようになりました。さらに、異文化交流を通じて、多様性を受け入れることの大切さを改めて実感しました。当日のトークショーなどで、相手の文化や歴史、価値観を知ることができ、これまで当たり前だと思っていた自分の考え方が実は限られた視点に過ぎなかったのだと気づかされました。異なる文化を持つ人々と直接触れ合うことで、理解を深めることができ、よりオープンな視野を持つきっかけとなりました。この経験を活かして、今後外国の方と出会った際には、文化の違いを恐れず自分から積極的にコミュニケーションを取っていきたいと思います。

（大寺 杏梨 古城池高校2年）

今回テラスミーティングのテーマ決め、実行、運営に関わらせていただく上で数多くの方に出会わせていただきました。特にテーマ決めのときには私自身1年生の頃から水島について調べていましたが、調べる手段としてインターネットしか頼るものがありませんでした。ですがこのテラスミーティングを通していろんな方と直接お話を聞いたり、実際に水島を歩くことで、地域の魅力や課題を肌で感じることができました。インターネットでは得られない情報や視点を多くの方々から学ぶことができ、私自身の理解が深まりテーマに対するアプローチがより具体的になり、実行に移す際の参考にもなりました。

当日のテラスミーティングは、あいにくの雨模様でしたが、それにもかかわらず多くの方々にご参加いただき、無事に成功を収めることができました。雨の影響で一部のプログラムを変更せざるを得ない場面もありましたが、参加者の皆様の柔軟な対応と協力のおかげで、スムーズに進行することができました。特に、屋内でのセッションや、会の最後には幸運にも一時的に雨がやみ、イベントの会場で紙飛行機大会が開催されました。このアクティビティは大変好評となり、参加者の皆さんが自分の手で作った紙飛行機を飛ばす姿はとても楽しそうで、会場全体が笑顔に包まれました。子どもから大人まで、みんなが一緒になって楽しむことができたこの瞬間は、参加者同士の絆を深める素晴らしい機会となりました。このような機会を与えていただき、そして私達の活動にご協力していただいた方々には本当に感謝でいっぱいです。この経験を活かして今後の自分の人生にいかしていきたいと思います。

(据石 なごみ 古城池高校2年)

私たちは3月15日に水島ニシナ駐車場にてテラスミーティングを行いました。このイベントのために2024年の7月から8ヶ月間たくさんの人と共に準備をしてきました。最初の1、2ヶ月間はテーマを何にするかもなかなか決まらず先行きはとても不安でした。ですが協力して頂いた大人の方々からもアイデアを得たりして、「異文化交流」というテーマに決まりました。そこからは色々な外国人のための団体に協力を依頼していきました。その過程の中で目上の人への礼儀や、自分らが何をしてほしいかを明確に伝えるための術を身につけて行くことが出来たと思います。初対面の、それも全く異なる方とお話をする中でコミュニケーション能力も身につけることが出来たと思います。テラスミーティング当日は、生憎の雨で、まずテラスミーティングを屋外か屋内でやるかをギリギリまで決めきれなかったり、計画していたトークショーが屋外で出来なかったりと、ハプニングが起きてしまいましたが、たくさんの人に参加していただき、企画も盛り上がったので結果的にはすごく良いイベントが行えたと思います。来場してくれた方、イベントに協力していただいた多くの団体のたくさんの方に感謝致します。来年はもっとより良いイベントになればいいと思います。

地域学習を通じた外国人技能実習生と共生する地域づくり

(橋本財団 2024 年度助成事)

橋本財団の助成事業として、外国人技能実習生と一緒にまわる「クルーズツアー」「バスツアー」、MIZUSHIMA WALKING、水島テラスミーティング、活動報告会を開催した。これらの活動を多くの人に見てもらうためのホームページの改正を行なっている。

<経過報告>

4月2日	外国人実習生受け入れ団体（RASSCA 協同組合）と相談
4月19日	コンソーシアム会議
5月30日	コンソーシアム会議
6月22日	8月10日研修参加者事前オンライン研修会（公園問題について）講師：古川明
6月27日	コンソーシアム会議
7月13日	8月10日研修参加者事前オンライン研修会（水島商店街の在り方）講師：水島信用金庫
7月23日	テラスミーティング会議
8月7日	外国人実習生と懇談（林美帆）
8月10日	外国人実習生と一緒に学ぶ水島（クルーズツアー）
8月27日	コンソーシアム会議
9月3日	9月8日研修のための事前オンライン勉強会 講師：林美帆
9月8日	外国人実習生と一緒に学ぶ水島（バスツアー）
9月21日	テラスミーティング会議
9月26日	岡山大学との打ち合わせ
10月26日	テラスミーティング会議
11月7日	コンソーシアム会議
11月13日	テラスミーティング会議
11月17日	まちあるき開催（MIZUSHIMA WALKING）
12月18日	テラスミーティング会議
1月12日	テラスミーティング会議

1月29日	コンソーシアム会議
2月6日	テラスミーティング会議
3月11日	コンソーシアム会議
3月14日	テラスミーティング準備
3月15日	コンソーシアム活動報告会
3月15日	水島テラスミーティング開催

(黄色：イベント開催)

1. 外国人実習生との研修ツアー

水島にいる外国人実習生に、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの研修プログラムを体験してもらい、コミュニケーションを図ろうということを企画した。実現に向けて、会議で議論を重ねる中で、外国人実習生と同世代の学生と一緒に研修を受けて、コミュニケーションを取る形で実践することになった。ツアーはクルーズ（8月10日）とバス（9月8日）の2回行った。

1) クルーズツアー（8月10日）

事前学習会は2回実施した。同世代の学生の募集は、水島在住の岡山大学学生の中原夢子さんが行った。

①事前学習1：テーマ「水島の公園を有効活用するには?」（6月22日）

水島地域には歴史的な背景から、100以上の公園が存在する。倉敷芸術科学大学の学生によってペイントされた遊具のある公園や芝生が整備された公園は子供連れで賑わっている。しかし、それら一部を除いては、利用者がほとんど見られない公園ばかりである。水島の公園問題は、単に土地が無駄になっているというだけでなく、防犯上の問題なども存在する。そこで、「水島の公園を有効活用するには?」というテーマを設定し、今は利用していない層の人々が今後利用したくなる公園にするにはどうしたらよいか、を中心にディスカッションを進めた。

参加者:岡大 5 人、大阪公立大 2 人、古城池高校 4 人、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム代表古川明

全体の流れ:みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの代表の古川さんから水島の商店街と公園についてご紹介いただく。少人数グループでディスカッションした後に、全体グループで発表。古川さんからフィードバックを頂く。そのフィードバックを受けて各グルー

プで振り返り。最後に高校生のコメント。

今回は水島についての知識が豊富な倉敷古城池高校の生徒4人にも参加してもらった。彼らは学校の探究活動で社会学について学んでおり、水島ではイベント等を企画運営している。また、ベトナムからの留学生の参加もあり、前回以上に多様な視点からのディスカッションとなった。

公園を利用目的ごとに区別する(サッカー用、バスケット用、子供が遊ぶ用、ゆっくりリラックスする用等)、季節ごとの花をそれぞれ別々の公園に植えるなど、実用的ながらもクリエイティブなアイデアが生まれた。古川さんはそれらを示した公園マップを作成するという案に特に興味を持たれたようだった。各グループからのアイデアを組み合わせることでさらに効果的なアプローチが可能になりそうである。

②事前学習会2：テーマ「水島商店街を生まれ変わらせるには？」(7月13日)

参加者:岡山3人、大阪3人、東大SDGs2人(うち1人は東京大学職員)、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム林、大阪公立大学より除本先生、水島信用金庫業務部山本さん

最近「レトロ」が流行っているため、水島商店街を新しくすることなく、そのままの良さを活かそうとするアイデアがほとんどだった。地域の高校生が集まれる場所としての地元民向けの商店街にする、水島臨海鉄道に乗り換えて遠くからでも来たくなるお店(古着屋やカフェ)のある商店街にするなどの意見が出た。

(本テーマについては、水島での対面セッションでも同様に扱った。そこでは、商店街をパッケージとして捉えるのであれば、水島には在日朝鮮人とムスリムが多く住んでいることを利用して、鶴橋や新大久保のようなコンセプトが明確な商店街にするという提案があった。)

水島商店街はお店兼住居又は物置となっているという実情があるため、物件を買い取るということは困難である。そこで、時間単位での貸し出しを提案する、住民の重い腰を上げてもらうほどのメリットを示すなどの工夫が必要になりそうだと話した。またリノベーションをするにしても人手がいらないため、ボランティアを募らなければならない。水島商店街を生まれ変わらせるためには、地域全体で協力する必要があると再度確認した。

③クルーズツアー当日(8月10日)

参加者:岡山大学生 4 人、大阪公立大学生 2 人、古城池高校 7 人(うち 1 人は先生)、インドネシアからの技能実習生 2 人、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム古川、林、福田、除本先生、岡山大学より吉川先生

当日の流れ:

10 時に岡山駅に集合し、JR と水島臨海鉄道で栄駅へ。水島の参加者はみずしま資料交流館にて合流。

みずしま資料交流館で福田さんより、水島地域の公害について学ぶ。患者が被害者としての認定を受けられなかったこと、企業からの和解金の一部からみずしま財団が設立されたこと等のお話を伺った。

水島商店街を歩いて常盤駅まで向かう。スナックの多さや人の少なさ、開店時間の遅さに驚きを隠せていない様子であった。商店街を実際に見た感想は、マイナスなものが多かった。

常盤駅から水島駅まで水島臨海鉄道へ向かう。水島愛あいサロンでお弁当(うち技能実習生用はハラル対応)を食べ、そのままディスカッションを行った。20 人を年代がバラバラな 4 つのグループに分け、大学生・高校生・大人・技能実習生が互いの意見に耳を傾けた。テーマは「水島の未来について総合的に考えよう」。これまでオンラインセッションで扱った公園問題と水島商店街について、さらに掘り下げた。実際に街並みを見て歩いたことで、さらに具体的で充実した話し合いができた。あるグループは、商店街が碁盤の目のようになっており、自分がどこを歩いていて、目的物がどこにあるのかがわからなかったという体験から、アーケードや大きな看板を設置することを提案した。また同グループが商店街の通りにターゲットに応じた店を配置する(若者向けの通り、大人向けの通り等)という提案をした時には皆驚きの声を上げていた。

歩いて水島港まで向かい、水島通船の船と倉敷古城池高校生のガイドでコンビナートクルーズへ。水島コンビナート自体を初めて目にした参加者たちは、どこまでも続く企業の工場を見て圧倒されていた。陸の上からは見えない、鉄鉱石の山や巨大な船はまさに圧巻であったと話した。

水島駅で解散した。

大学生の参加者を対象としたアンケートの振り返り ◎オンラインセッション、対面セッション共に全員が「とても満足」と答えた

オンラインセッションは少人数のディスカッションと全体での共有、ワークシートが特に

好評であった。それぞれ、少人数であったことで意見を出しやすかった、全体で他のグループの意見を聞けて刺激となった、ワークシートの流れが整っており進めやすかったなどのコメントをもらった。オンラインセッションは毎回グループの雰囲気がよく、学年の異なる参加者同士も年齢を気にすることなく話することができていたようだ。対面セッションではオンラインで既に扱った公園問題と水島商店街について、実際の街並みを見てからさらに掘り下げていったため、ディスカッションが盛り上がったと答えた参加者が多かった。オンラインで話していた分、対面でもスムーズなコミュニケーションをとれていたことの寄与度は大きい。

対面セッションではディスカッションだけでなく、水島の公害の歴史についても学んだが、参加者の多くはその歴史を知らなかったようで、新しいことを学べたとコメントしている。

<タイムスケジュール>

- 10:00 岡山駅集合 JR・水島臨海鉄道にて移動
- 11:30 みずしま資料交流館にて集合 福田さんから公害を学ぶ
- 12:00-13:00 水島商店街をまちあるき 案内：古川さん
- 13:00-14:00 ランチ、休憩
- 14:00-16:00 水島についてディスカッション
- 16:00-16:15 水島港へ徒歩移動
- 16:15-17:15 水島コンビナートクルーズ
- 17:40 水島臨海鉄道水島駅解散

2) バスツアー（9月8日）

一緒に学ぶ同世代の学生は大阪公立大学の除本理史3年生ゼミと合同でツアーを行うことで、外国人実習生との交流を行った。

①事前研修

除本ゼミにて前期は『地域の価値をつくる』（東信堂、2022）を利用して、水島の公害とまちづくりについて、学習を行った。

研修の事前学習については、オンラインにて林美帆が、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムとしてのあゆみ、橋本財団事業として外国人技能実習生とともに行うことについてレクチャーを行った。

②バスツアー当日（9月8日）

参加者：外国人技能実習生 2 名、大阪公立大学学生 10 名、大阪公立大学大学院生 1 名、教員 3 名、橋本財団 2 名、コンソーシアム 4 名（古川、林、福田、塩飽）

倉敷駅で集合して、バスに乗車した。コンソーシアムの塩飽さんから、倉敷の成り立ちなどを交えてガイドをしてもらいながら、みずしま資料交流館に向かった。

みずしま資料交流館にて、外国人技能実習生と橋本財団の皆さんと合流した。引き続き、塩飽さんによる解説を聞きながら、水島商店街を解説してもらった。戦争によって三菱重工業が進出してきたことによって町ができたこと、戦後はコンビナートの開発によって町が拡大したことについて学習をした。

水島港では下車をしてコンビナートと水島港の関係について、水島湊の入港船数が日本 1 であることを古川さんから解説をしてもらった。その後、鷺羽山スカイラインの水島展望台に移動して上空からコンビナートを俯瞰して学習した。

バスで呼松漁港に移動し、下車して街歩きを行った。呼松は福田地域の海の玄関口で、コンビナートができる前は一番の繁華街であったこと、隣接地域にコンビナートができたことで、公害の被害を真っ先に受けたことなどを学習した。

バスで日本遺産に指定されている板敷水門に移動し、下車した。板敷水門では、水島地域が干拓によって作られた地域であり、元々は農地だったことなどを学習することができた。

バスでみずしま資料交流館に移動して、資料館にて福田さんから水島の公害についてと、公害裁判と地域再生の取り組みについてレクチャーを受けた。外国人実習生を交えて、グループディスカッションを行なって、発表。その後解散をした。

<タイムスケジュール>

12:40～16:00 水島バスツアー（みずしま財団・塩飽さん）

大阪公立大学除本ゼミ 12:35 倉敷駅着（駅でバスに乗車）

13:00 すぎ 実習生さん、橋本財団をみずしま財団前でピックアップ

水島商店街（車中から）⇒ 水島港（下車、看板を見る）⇒ （広江から登る）水島展望台（下車）⇒ （宇野津から降りる）呼松地区（漁港で下車）⇒ 三菱ケミカルの敷地内の道路を通過⇒ 板敷水門（下車）⇒ みずしま資料交流館 16:00 ごろ

16:00～17:00 お茶を飲みながら懇談（@みずしま資料交流館）

17:00～17:30 みずしま資料交流館見学（みずしま財団・福田さんから説明）

3）外国人実習生の感想

・いろいろな 経験が おしえて くれた ほんとに ありがとうございます。皆やさしです。経験が 初めてなんだけど 皆が やさしので ほんとにたおしかったです。ありがとうございました。

・本当に楽しかったです。 みんなと水島の町を歩いたり、昼ご飯をたべたり、話したり、笑ったり、水島の町をそうだんしたり、はっぴょうしたり、写真をとったり、船を乗ったり、したのが本当に楽しかったです。 いい経験になりました。 もしこのイベントが有ればえんりょうしないで私をぜひさそってください。

写真：クルーズツアー



写真：バスツアー



2. 水島まちあるきイベント（MIZUSHIMA WALKING）

水島の町案内看板を、2023 年にみずしま滞在型環境学習コンソーシアムが作成したが、これらの看板を利用した街歩きイベントを開催して欲しいと水島まちづくり協議会から提案があった。そこで、これらの開催を行うことを外国人技能実習生にも告知して、参加を呼びかけた。結果的には外国人技能実習生の参加者は一名にとどまったが、街の人たちと触れ合えるきっかけとなった。

日時：2024 年 11 月 17 日（日）13:30－16:00

集合：水島臨海鉄道 水島駅 解散：水島臨海鉄道 弥生駅

案内：古川明（みずしま滞在型環境学習コンソーシアム会長、ミズシマ・パークマネジメント Lab. 代表）、林美帆（みずしま滞在型環境学習コンソーシアム事務局長、岡山理科大学准教授）

定員：20 名 費用：無料

<コース> 約3.3キロ



水島駅(臨海鉄道周辺の彫
刻の鑑賞)→あいあいサロン
→水島港→旧ニシナ百貨店
→旧水島航空機製作所社宅
→西栄町駐車場→みずしま
資料交流館→水島協同病院
→水島支所
主催：みずしま滞在型環境
学習コンソーシアム、共

催：水島まちづくり協議会

参加者：18名（うち、外国人実習生1名）、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム1名

<感想>

近代が凝縮しているところ

本日はありがとうございました。今日は、江戸時代の干拓から、高梁川の一本化、農地の開発に始まり、三菱重工の誘致、戦後のお話まで、時間軸のある水島について改めて学ぶことができました。

ずっと、感じていますが、若者が水島の魅力に気づき、日々、商店街が元気になっていることを感じることに、林さんや古川さん、除本さん、岡さんを始めとした思いある方々が深く地域に溶け込み発信している。人が魅力だと感じています。何しろ、いつも出会う方々が、いい方ばかりで出会いだけでも楽しみです。

土木的な視点からは、区画や道の狭さが残念だと思うことはありますが、南北の商業地域に沿って臨海鉄道が位置し、車だけでない交通が利用可能であること、コンパクトシティであるため、なぜ、地域の活力がより盛り上がらないのかと不思議で、技術者としても興味を持ち続けています。

昭和を感じる町並みが未だ現存すること、派手ではないものの、美味しいお店や、あまり行けてないですが、焼肉屋に始まり、スナックなどの大人が楽しめるお店も多いことなど、これからも水島を楽しみたいと改めて思わせていただきました。

楽しかったです！

体力的には少し疲れたのですが、もっといろいろ聞きたい！という気持ちがありました。

歴史が浅いこと(みんな他の地からの移民)が魅力だと思いました。

初めての訪問でしたが、スナック街が栄えているなど感じました。夜も歩いてみたい。個人的に遊郭赤線の勉強をしているのですが、水島の赤線は知りませんでした。Twitterで水島の写真を載せたら、水島に住んでる人や過去に住んでいた人など、思い入れのある人たちから複数のリプライをいただきました。記憶に残る街ですね。公害のことは知りませんでした。四大公害は授業で習うけど、水島のことはなかなか。学びが深まりました。次回はゆっくり散策して水島焼肉を食べて、見晴らし旅館に泊まりたいです！

水島の歴史に合わせて、地元に住んでいる方のお話（東高梁川のこと）や医療福祉関係の方の公害問題のお話が聞けて、水島をより詳しく知ることができました。みんなで実際に歩くことで、参加者の方からも水島エピソードが聞くきっかけができて楽しかったです。

市内に住んでいても、徒歩で見て回る機会がないので、ガイド付きで楽しく回ることができて良かったです。水島の魅力は、戦後出来た新しい町だということ。これから歴史を作っていける、新しいことにチャレンジできる街、という印象でした。



3. ホームページ改正

外国人技能実習生とのツアーやテラスミーティング、MIZUSHIMA WALKING などの、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムによる ESD コーディネートをした事例を紹介するホームページがなかったため、既存のホームページ (<https://sdgs.mizushima-f.or.jp/>) の事業内容 (<https://sdgs.mizushima-f.or.jp/content/> 赤線が新設部分) のページに「水島のまちづくりと ESD コーディネート事例」の項目を作成し、コーディネート事例を掲載できる仕組み (<https://sdgs.mizushima-f.or.jp/coordinate/>) を新設した。まだ、橋本財団の助成を受けた 2024 年度の取り組みについては、まだ掲載できていないが、これから紹介していく予定である。

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

事業内容

水島・高梁川流域において、
持続可能な地域づくりを担う人材を育成

高梁川と瀬戸内海が育んできた豊かな自然環境、歴史・文化・暮らし、そして企業活動が生み出す英知を結集し、本格的な滞在型環境学習プログラムを企画・実施することで、地域はもとより世界の子どもや若者たちの学びを支え、持続可能な地域づくりを担う人材育成を目指します。



学習プログラムの実施

地域の人々と一緒に「水島の良いところ」を掘り起こし、学習や観光へとつなげる研修プログラムを提供しています。平和・環境・災害を一か所で学べる水島へ、お越しください。

[プログラムページへ >>>](#)



水島のまちづくりとESDコーディネート事例

水島で研修をするだけでなく、水島のまちづくりと一緒に取り組んでみませんか？
これまで、高等学校や大学と一緒に、まちづくりに取り組んできました。「教育を通じて、水島のまちづくりに取り組んでみたい」という思いを持っている方々、ぜひみずしま滞在型環境学習コンソーシアムにお声かけください。要望に応じてコーディネートいたします。

※ESD：Education for Sustainable Developmentの略。持続可能な開発のための教育。環境や貧困、資源などの問題を主体的に引き受け、行動し、持続可能な社会を実現する力を育む教育です。

[コーディネート事例 >>>](#)

＜新設ページ＞

水島のまちづくりとESDコーディネート	
コーディネート事例	
令和5年度 (2023年度)	大学 岡山大学の教養科目「倉敷水島まちづくり論」 岡山大学岩淵泰先生の授業の一環として、9月29日にまちづくりフィールドワークが実施されました。午前中に栄町商店街のまちあるき、午後は地域の方のお話を聞きました。印刷会社の立場から地域活動との関わりや、福祉事務所の経営者から障がい者の自立支援と地域との関わりについて伺いました。  報告書
	高等学校 倉敷古城地高校生クルーズ定例化（焼肉クルーズ） 水島の地域おこし協力隊が作成した「水島焼肉マップ」とコラボレーションして、焼肉チケットを発行、水島造船が主催する形で高校生クルーズを企画・実施をしました。2024年3月8日に先行演習、2024年3月23日に本番を行い、定員満席の実施となりました。  報告書
	高等学校 大学 テラスミーティング TOKIWA 倉敷古城地高校生とOBGが集まって企画したお祭り。2019年以降、仁科百貨店本店の跡地を利用し、岡地が、水島内外を問わず、多くの人の集える場所(街のリビング)となることを願って実施されてきた「水島バーキングデー」の後を継ぎ、2023年度は「昭和レトロ」をテーマにお祭りを開催しました。  報告書
	大学 卒業論文「水島の観光の可能性」を考える 2022年度の観光庁事業にて看板作成に携わった、大阪公立大学の除本理史先生のゼミにて、水島の観光の可能性について書かれた卒業論文「水島の『困難な過去』と観光政策——水俣と比較しながら倉敷市の役割を考える」のエッセンスを活動交流会で発表してもらいました。  報告書

三菱石油石油流出事故から 50 年 記念講演会

事務局長 岡山理科大学 林美帆

2024 年は、三菱石油石油流出事故から 50 年になります。この事故は、瀬戸内海の東半分を重油で汚染するという、大変な環境汚染となりました。当時、重油を柄杓で掬って掃除したという体験をしている人もたくさん存在します。

この石油流出事故の年に三菱石油に入社し、事故の後処理に携わった古川明さんに当時の事故の記憶から、その後の中東の石油流出事故への支援に携わった話などを伺いました。

日時 2024 年 12 月 20 日（金）14:00－15:30

主催 みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

協力 倉敷市環境学習センター

会場 倉敷市環境学習センター（〒712-8057 岡山県倉敷市水島東千鳥町 1－5 0
4 F 西棟）

参加費 無料

参加者 58 名

山陽新聞、中国新聞、朝日新聞で報道されました。

三菱石油水島製油所
石油流出事故から50年

記念講演会

2024/12/20

倉敷市環境学習センター

倉敷市水島東千鳥町1-50 4F 西棟



写真：高田昭雄

日 時 2024/12/20 14:00-15:30 申 込 右のQRコードまたは電話

参加費 無料

080-3897-3441

主催：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 協力：倉敷市環境学習センター



2024年は、三菱石油石油流出事故から50年になります。この事故は、瀬戸内海の東半分を重油で汚染するという、大変な環境汚染となりました。瀬戸内海沿岸の地域では、重油を柄杓で掬って掃除したという体験をしている人もたくさん存在します。

この石油流出事故の年に三菱石油に入社し、事故の後処理に携わった古川明さんに当時の事故の経験、その後の中東の石油流出事故への支援やリスク管理の変化などを伺います。

講師



古川明さん

1951年倉敷市水島生まれ。1974年に三菱石油株式会社（現：ENEOS）入社、水島の石油流出事故の後処理に携わる。湾岸戦争のペルシャ湾の重油流出事故の際には、国際緊急援助隊（外務省の原油回収専門家）の一員として、ペルシャ湾へ派遣。仙台製油所の副所長を経て、水島の新水マリン（株）の社長となる。現在は倉敷芸術科学大学講師（危機管理）、ミズシマ・パークマネジメントLab代表理事、みずしま滞在型学習コンソーシアム会長として水島のまちづくりに携わっている。

三菱石油 石油流出事故とは

1974年12月18日、午後8時40分ごろ、倉敷市の水島コンビナートにある三菱石油水島製油所の270号タンクから重油が流出。タンク横に取り付けられていた直立階段と底板付近の基礎コンクリートが防油堤を破壊したことから、一部は防油堤を乗り越えて海上に流れ出しました。流出した重油は、約7500～9500キロリットルに及びました。西は、笠岡市沖、東は紀伊水道にも及び、岡山、香川、徳島、兵庫の4県の海岸を汚染し漁業などに莫大な被害を与えました。瀬戸内海のほぼ東半分を油の海にした重油流出事故は、コンビナート災害の恐ろしさをまざまざと見せつけました。

みずしま滞在型環境学習コンソーシアムとは

「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」は、倉敷市、倉敷商工会議所、岡山大学、地元企業、そしてまちづくり団体などが協力し、水島を平和・公害・環境学習のフィールドとして活用するための円卓組織として、2018年に設立されました。このコンソーシアムは、「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成に向けて活動しており、水島の環境や歴史的背景を活かし、地域社会の発展と環境保全に貢献しています。2023年度の研修受入は744人でした。水島の魅力を内外に発信しています。



みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動報告会

日時：2025 年 3 月 15 日（土） 9：30－12：00

場所：水島公民館

<タイムスケジュール>

9:30-9:35	挨拶 古川明会長
9:35-10:05	みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 2024 年度活動報告 ・ 研修受け入れ ・ 橋本財団助成事業 ・ 三菱石油石油流出事故 50 年講演会 ・ 亀島山地下工場 イベント企画者への案内 ・ MIZUSHIMA WAIKING ・ テラスミーティング
10:05-10:10	岡浩二さん（みずしま滞在型環境学習コンソーシアム役員）コメント MIZUSHIMA WAIKING について
10:10-10:50	岡山県立倉敷古城池高校生 探究学習発表 6 組
10:50-11:00	岡山大学地域実践型授業 2024 年度の取り組みについて
11:00-11:10	大阪公立大学除本ゼミ 水島のお土産品開発について
11:10-11:20	質問タイム
11:20-11:45	グループワーク、感想共有
11:45-11:55	発表
11:55-12:00	閉会の挨拶 副会長

組織運営

<コンソーシアム事務局会議>

2024 年 4 月 19 日、2024 年 6 月 27 日、2024 年 8 月 27 日、2024 年 11 月 7 日、2025

年 1 月 29 日、2025 年 3 月 11 日

<コンソーシアム総会>

2024 年 5 月 30 日

<役員会>

2025 年 3 月 15 日

<座談会開催>

2024 年 12 月 20 日（林美帆・福田憲一・古川明・三村聡・三宅康裕・除本理史）

「水島のまちづくりと JEC 大会への期待」『環境と公害』2025 年 4 月号、岩波書店として掲載

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 2024 年度活動報告書

発行：2025 年 3 月

事務局：〒712-8033 岡山県倉敷市水島東栄町 1 1-1 2 みずしま財団内